

地域懇談会（平成31年3月）にて皆さまからいただいた主な意見から、まちづくりの方向性につながるキーワードを抽出し、方向性の視点を以下のとおり見直しました。

まちづくりの方向性（たたき台）

良好な住宅地や農地の環境を維持しながら、
まちの資源や機能を活かした利便性の高い
「地域の身近な交流の拠点」の形成

上位関連計画における位置付けやまちの現況、まちづくりの課題等を踏まえ、まちづくりの方向性（たたき台）を「地域振興拠点」「住民等」「来訪者等」の視点で整理し、さらに検討範囲を3つのゾーンに区分し、整理します。

地域振興拠点

● 周辺地域の生活を支える拠点

・西武国分寺線上に位置し、周辺地域の市民生活を支える拠点を形成

● 駅利用者の利便性を支える基盤の充実

・住民等の駅利用者や地域への来訪者の利便性を支える基盤を充実

● 基盤の整った駅前等にふさわしい都市機能の充実

・駅周辺の都市機能（商業・業務、公共機能）を充実
・周辺地域の市民の生活等を支えつつ、新しい交流を促す拠点を形成

住民等

● 安全・安心、快適な暮らしの場

・本エリアで暮らす住民にとって、日常を支える安全・安心、快適な住環境を形成
・低層住宅が広がる地域では、農地と住宅に配慮したゆとりある住環境を形成

来訪者等

● 便利、快適な機能が集積する場

・駅と主要道路を活かし、本エリアへの来訪者等にとって、便利、快適な都市機能が集積した場を形成
・住民の安全・安心、快適な暮らしとともに、来訪者等にも配慮した都市機能を充実

地域懇談会における
まちづくりの方向性につながる主なキーワード

Aゾーン

沿道の立地を活かす②
来訪者②

Bゾーン

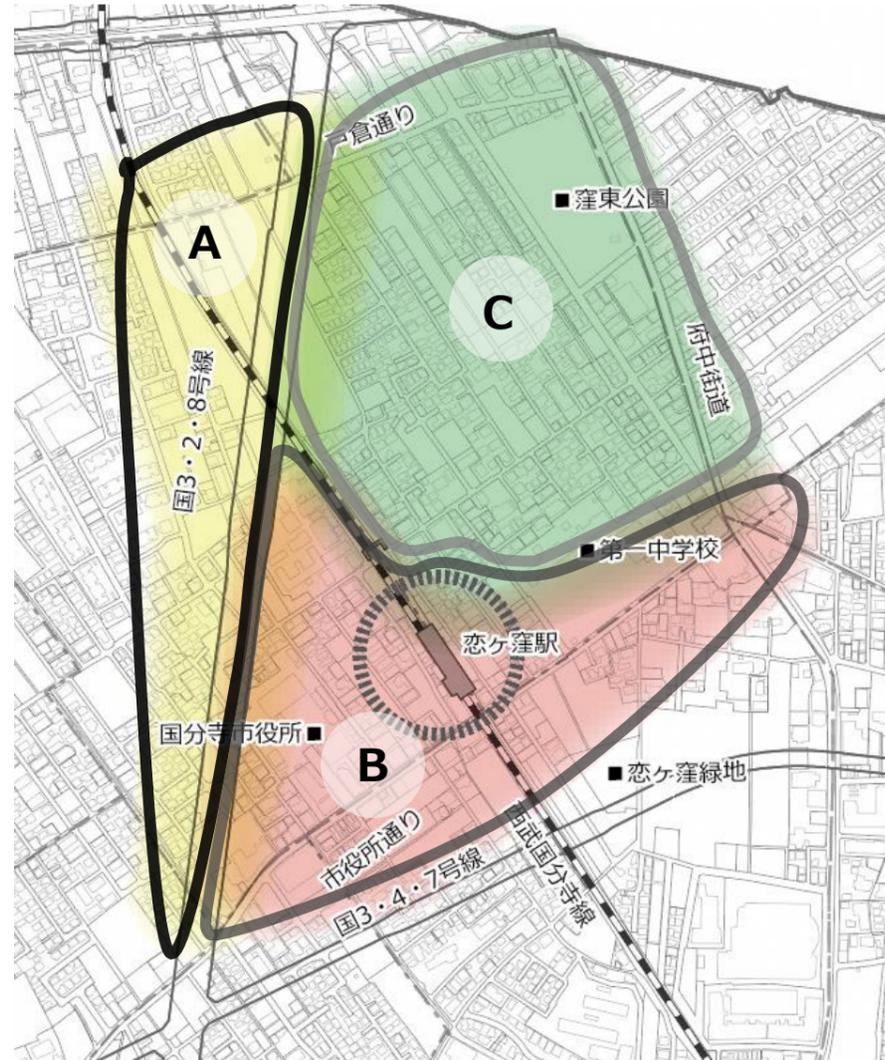
買い物が楽しめる店舗②
安全な道路①
駅周辺の整備①

Cゾーン

道路基盤の改善①
木密①
農地の保全③
公園の活用③

エリア全体について

公共施設②
低層住宅②
道路①
緑③
公園③
暮らしやすいまち②
利便性②
活性化②



※今後の検討により、検討範囲を見直す可能性があります。

まちづくりの方向性（たたき台修正案）

視点① 地域振興拠点

拠点としてのまちの玄関口と道路基盤の整備

視点② 住民の暮らしやすさの向上

まちの活性化につながる土地利用を誘導し、日々の暮らしの利便性・快適性の向上を図る

視点③ 緑・農地・公園

農地や公園の保全・活用により潤いのある住環境を形成

まちづくりコンセプトの見直し
【恋ヶ窪ブランディングコンセプト】

【視点①】

地域の交流の拠点にふさわしい基盤の充実

- 市民生活と地域交流の中心となりまちの玄関口となる駅を中心とした拠点の形成
- 地域活動を支える道路基盤の充実
- 暮らしを支える安全・安心な住環境の形成
- 周辺地域では、農地の保全により、ゆとりある住環境の形成

【視点②】

暮らしの質を高めるまちのにぎわい

- 駅と主要道路を活かし、市民にとって、便利、快適な都市機能（商業・業務、公共機能）が集積したエリアを形成
- コミュニティを育み、交流を促す場と機会の創出
- 駅近くのまとまった土地は、地域の活性化につながる有効活用を図り、交流人口を拡大

【視点③】

暮らしを豊かにするまちの緑

- 公園の活用
- 農地の保全
- 道路内の緑化
- 民地内の緑化